１種(社会人)委員会

委員長　三　阪　公　郎

Jリーグ開幕後ピーク時には３０チームを超えていた明石市社会人リーグも、ここ１０年間の社会情勢の悪化に伴い（いわゆる失われた１０年）２０１０年度には１３チームに減ってしまいました。

使用グランドも、２００１年には、二見海浜公園・明石公園球技場・富士通明石工場・明石高専等が使用可能であったのですが、諸般の事情により二見海浜公園以外が使用不可能となったため、現在では１箇所のみのグランドでリーグ戦を運営しています。

そのため、他協会に比べると試合数の面では非常に不利となっていますが、各チームの努力によりレベル低下に歯止めがかかっていると考えます。

【年度別登録チーム数と使用グランド】

年　度	チーム数	使用グランド
２００１年	１８	二見海浜、富士通、明石高専、明石公園競輪場、稲美中央
２００２年		
２００３年	１４	二見海浜、稲美スポーツセンター　明石高専
２００４年	１７	二見海浜、稲美スポーツセンター　明石高専
２００５年	１７	二見海浜、明石高専
２００６年	１６	二見海浜、明石高専
２００７年	１６	二見海浜、明石高専
２００８年	１６	二見海浜
２００９年	１５	二見海浜
２０１０年	１３	二見海浜

県レベルでは、２００５年に全国社会人サッカー大会（国体リハーサル大会）、２００６年には兵庫国体が開催されました。

一部では、大変盛り上がりましたが、明石ではサッカー競技が無かったためあまり盛り上がりは無かったようです。

さて、明石はもちろん各都市リーグチームの当面の目標は、県リーグ昇格だと思います。

１９９７年に「明石ＦＣ」が県リーグに昇格して以来、明石市協会からは新規昇格したチームがありませんでしたが、喜ばしいことに「平成２２年度都市リーグ決勝大会」において、明石市社会人リーグ代表の「ＦＣＬＡＤＹＧＯ＋Ｆ（Ａ）」が見事優勝し、５年越しの夢を果たしました。

これにより平成２３年度の県リーグ２部では「明石ＦＣ」と「ＦＣＬＡＤＹＧＯ＋Ｆ（Ａ）」のダービーマッチが実現することになります。これに刺激を受け、各チームの一層のレベルアップと県リーグ昇格を期待しています。

また、毎年行われる県内１３都市協会対抗の「社会人都市対抗戦」でも、明石は一回戦敗退が続いており、まずは一勝、次に優勝を目指したいと思います。

幸か不幸か、明石には「社会人都市対抗戦」を開催可能な芝生グランドが無いため（きっと不幸なのでしょうが）一度も主催していません。将来立派なグランドが出来たときには、この大会を主催し、優勝できるようなレベルの社会人リーグの運営を目指したいと思います。

最後に、社会人になってからもサッカーを２０年・３０年と続けている方が大勢います。
４０歳になれば４０歳なりのサッカー、５０歳になれば５０歳なりのサッカー、６０歳になれば６０歳なりのサッカーがあると思います。

どうか皆様がこれからも末永く明石でサッカーを続けてくださるよう希望しています。

「平成２２年度都市リーグ決勝大会」優勝の「ＦＣＬＡＤＹＧＯ＋Ｆ（Ａ）」イレブン＋α
（平成２２年１２月５日　撮影）

2種(高校)委員会

委員長　田村孝次

2種の活動の多くは、高体連や県協会・東播協会主催の試合になります。高校総体と選手権以外に、日本サッカー協会が数年前から掲げる「リーグ戦文化の醸成」により、長期に渡るリーグ戦を義務付けられています。このため、各協会が主催し、全国リーグを頂点とする、プリンスリーグ関西・兵庫県トップリーグ・東播リーグとピラミッド式のリーグが長期にまたがって行われています。そのため、明石市サッカー協会主催の試合は、6月のプレジデンシャル杯と、7月に開催される東播1年生大会の明石地区代表決定戦の2つのみとなっています。市内の大会は、少年・中学時代のサッカー仲間が、違う高校のメンバーとして顔を合わせるまたとない機会なので、明石市協会主催の大会をもっと増やすことができればいいのですが、スケジュール的に難しいのが現状です。

リーグにおいては、明石南高校がプリンスリーグ関西において、一時期活躍しました。現在、兵庫県トップリーグにおいて明石城西高校と明石南高校が健闘中です。県の高体連公式戦（総体，選手権）においては、明石城西高校と明石南高校が県の上位をうかがっています。他の6校も着実に自力をつけてきており、県大会で活躍するチームが増え、全体的なレベルは上がってきています。しかし、残念ながら県大会で優勝するようなチームはなかなか出てきていません。将来、兵庫県を代表して全国で活躍するチームが明石市から出てくることを期待しています。

また、各チームでの大会とは別に、2種の活動として技術委員会や指導者の協力のもとに定期的にトレセン活動を行っています。現在は、月に1回程度の活動ですが、市内の各チームの選手がレベルアップに励んでいます。ただ、トレセン活動を行うことができる公営の芝生のグランドが今のところは明石にはなく、高校のグランドを借りて活動しているのが現状です。

トレセン活動の集大成としての大会には、1月と7月に開催される兵庫県民大会サッカー競技があります。3部のリーグ制で、13都市協会トレセンの対抗の大会です。明石トレセンは、1部の下位と2部の上位を行き来しています。今後は、トレセン活動を更に充実させ、県民大会において1部の上位に定着できるよう頑張ります。

3種(中学)委員会

委員長　米村貴之

３０周年以後の１０年間、３種委員会でも大きな変化がありました。一つは中体連所属以外のチームの参入です。クラブチームとして、２００１年度からリベルタ明石ＦＣ、２００６年度からはＦＣエスポルトが参加することになりました。中体連所属のチームでも、兵庫県立明石学園（市協会のみに）が参加しました。３０周年の時点では１２チームだった３種委員会は、１０年間で３チームが増え１５チームとなりました（県登録１４チーム）。

時代の流れに伴い、大会も様変わりしました。試合の経験を多くすることなどを目的に、兵庫県をはじめサッカー協会全体としてリーグ戦が奨励され、明石市でもリーグ戦を行うようになりました。そのため、以前まで行われていた市民大会はなくなり、協会の大会は①冬から春にかけてのリーグ戦（Ｕ－１５）、②夏の明石ロイヤルライオンズカップ（Ｕ－１５、Ｕ－１４）、③冬の県選手権予選（Ｕ－１３）となりました（中体連の総体は除く）。

また、審判部の講習会活動や技術部のトレセン活動など、各部で精力的に取り組んでいます。

以下に、ここ数年の試合結果および諸活動について掲載しておきます。

【明石３種リーグ】（２００９年1月開始）

［２００８年～２００９年度］（A・Bリーグともに上下関係はなし）

Aリーグ	：	①衣川	②望海	③大久保　④野々池
Bリーグ	：	①大蔵	②大久保北	③江井島　④リベルタ

［２００９年～２０１０年度］（A・Bリーグともに上下関係はなし）

Aリーグ	：	①衣川	②大蔵	③大久保北　④大久保
Bリーグ	：	①魚住	②リベルタ	③野々池　④望海

【明石ロイヤルライオンズカップ】※３位決定戦はなし

［２００７年度（第２０回）］

シニアの部	：	①リベルタ	②大久保	③野々池	③衣川
ジュニアの部	：	①望海	②野々池	③衣川	③大蔵

［２００８年度（第２１回）］

シニアの部	：	①望海	②リベルタ	③朝霧	③エスポルト
ジュニアの部	：	①大久保北	②衣川	③リベルタ	③大蔵

［２００９年度（第２２回）］

シニアの部	：①衣川	②江井島	③野々池	③大久保北
ジュニアの部	：①衣川	②大久保北	③大蔵	③野々池

［２０１０年度（第２３回）］

シニアの部	：①衣川	②魚住	③リベルタ	③エスポルト
ジュニアの部	：①望海	②大蔵	③魚住	③魚住東

【県選手権予選（Ｕ－１３）】

２００７年度	：①衣川	②大久保北	③望海	③大久保
２００８年度	：①大蔵	②エスポルト	③望海	③魚住
２００９年度	：①野々池	②望海	③衣川	③魚住東

【明石招待サッカーフェスティバル】

昭和６１年（１９８６年）より、明石のサッカーのレベルアップを目的として始まった大会で、県内、県外から様々なチームを招待しています。この大会もこの１０年で変遷をたどり、招待チームもずいぶんと変わりました。また、明石市協会の参加チームも、市民大会の優勝チームを参加させたり、１年生の選抜チームを参加させたりするなど、色々と試行錯誤を続けています。今後も明石のレベルアップのために、たくさんのチームを招待し、試合をしていきたいと思っています。

【生徒審判講習会】

審判部の活動として、１年生を対象に各チームでのルールの徹底と審判員のすそ野を広げる目的で、審判講習会を行っています。県・市協会の協力のもと、Jr４級の資格を取得させ、その後も何度かの講習会を持ちレベルアップを目指しています。それにより、更に経験を積み、将来審判員として活動したいと考える選手も出てきています。

【トレセン活動】

Ｕ－１５、Ｕ－１３の大会をはじめとして、様々な形で活動をしています。以前は大会に向けての選抜の編成を中心に行っていましたが、近年は年間を通してトレセンの活動ができるように定期的に取り組んでいます。トレセン活動での経験をチームに還元し、各チームの更なる強化ができればと思っています。

【今後に向けて】

以上のような活動の中、この１０年間、いくつかのチームが全国大会（中体連大会）、県大会に出場し、好成績を収めています。中学校のチームが中心のため、学級数の減少に伴い部員数もずいぶんと減っているチームもあります。また、他市協会のクラブチームに所属する選手も増えています。**【明石の選手は明石で育て、大きく羽ばたいて欲しい】**と思います。

我々の活動を通じ、サッカーの楽しさ、おもしろさを中学生年代の生徒たちにもっともっと伝えていきたいと思います。それにより、明石のサッカーがより活発に、より楽しく、よりエキサイティングになっていくことを願います。